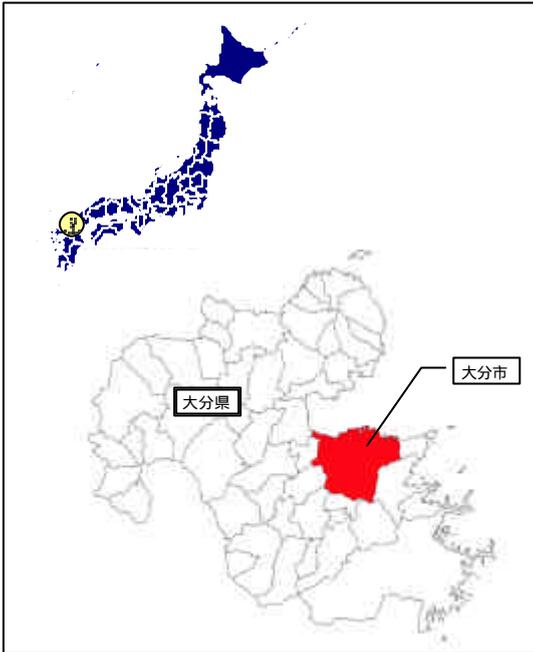


『緑地』を活用したみなとまちづくり(大分港)

地域の現状



大分港(重要港湾)
港湾管理者:大分県
所在市町村:大分市
人口:439,000人(平成15年3月 住民基本台帳)
観光客数:233万人(大分市 平成12年 全国観光動向調査)



【大分港全景】

工業港に生まれた貴重なウォーターフロント

大分港西大分地区は、大分港発祥の地であり、古くは16世紀中頃、藩主大友宗麟がポルトガル、明との交易を盛んに営み、栄えてきた。明治末期からは近代港湾としての整備が進み、臨海工業地帯が形成された。

現在は、昭和39年に就航した、四国・神戸とを結ぶフェリー基地として利用されている。

平成17年度に予定されているフェリーターミナルの移転に伴い、西大分緑地公園が整備される予定である(一部供用済)

市の海岸線のほとんどが臨海工業地帯に占められている中において、当該地区は中心市街地で唯一、別府湾を眺めるなど海を感じることができる地区でもある。このような特性を活かすべく、企業家育成のためのチャレンジショップ(かんたんサーカス) 倉庫を活用した貸し会議室(かんたん倶楽部)等が立地する等、商業施設の集積も一部見られている。



【ブルーダイヤモンド】

大分=神戸フェリー航路

西大分~松山~今治~神戸
(3往復日)
乗降客数 約36万人/年
航送車両 約15万台/年
(平成15年)

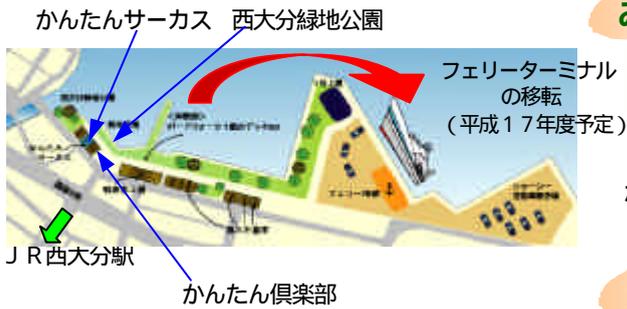
地域の課題

大分市の貴重な水際空間の高度利用

大分市の中で大分港西大分地区は都市部に立地し、海を身近に感じることのできる貴重な場所であるが、市民の利用度はまだまだ低いのが現状である。

そのため、西大分地区の特性を活かした、賑わいの場を創出して背後との一体化を図ることが期待されている。

『緑地』を活用したみなとまちづくり(大分港)



みなとまちづくりの目標

みなとの特性を活かした、憩い・賑わい拠点の創出

恵まれた立地と自然環境を活かして、多くの市民にとって日常的な交流、賑わいの場としてのウォーターフロント空間を目指す。

活用したみなとの資産

チャレンジショップ「かんとんサーカス」

大分県の第三セクター大分ウォーターフロント開発(株)が整備したチャレンジショップ(起業家に低賃料でスペースを貸し出す店舗)
平成15年3月完成。現在11人のチャレンジャー(起業家)が入居している。

貸し会議室「かんとん倶楽部」

倉庫を改装した貸し会議室。クラブイベント等も、ここで実施。
かんとんサーカスに隣接している。

西大分緑地公園

大分市中心で唯一のウォーターフロント。平成17年度予定のフェリーターミナル移転に伴い整備中。一部供用済。



【かんとんサーカス】



【かんとん倶楽部(右)】



【西大分緑地公園】

貴重な水際線を活かしたみなとまちづくり

取り組み体制

取り組みにあたっては、西大分地区のウォーターフロント開発の実現に向けた活動を展開している「NPO法人大分ウォーターフロント研究会」のメンバーを中心に、地元の自治会長や企業、行政関係者(大分市、大分県、国土交通省九州地方整備局別府港湾・空港整備事務所)で設置した「大分港・西大分地区みなとまちづくり協議会」が主体となって進めた。

大分ウォーターフロント研究会は、平成2年に恵まれた別府海岸の自然を活かし、個性豊かなウォーターフロント開発を成功させるために会員60名(地元企業経営者や新聞社等により構成)で設立した。

別府湾のウォーターフロントについてハード・ソフト両面から具体的な提言を行ったり、西大分地区にガス灯を設置したりするなどの活動を行っている。

平成15年3月にNPO法人格を取得し、運営費のほとんどを会員からの会費で賄っている。

『緑地』を活用したみなとまちづくり(大分港)

別府湾岸官民交流会議(シンポジウム)の開催

概要

別府湾沿岸の市町村の地域間交流や官民交流の場において、湾単位でみた西大分の役割やみなとまちづくりのアイデアなど把握するため、「今、変わろうとする西大分港」をテーマに、パネルディスカッション形式での意見交換を行った。

実施日：平成15年9月5日(金) 15:30~17:30

場所：杵築市「住吉浜リゾートパーク」

テーマ：「今、変わろうとする西大分港」

西大分港に何を期待し、どうあってほしいか

計画策定へのアイデアと提案

水辺の利用について参加市町村の取り組み紹介

参加者数：別府湾沿岸市町村代表 12人/一般参加者 50人



【シンポジウム】

取り組みの成果

今後も別府湾沿岸官民関係者の地域間交流を進めていく

- シンポジウムでは別府湾沿岸市町代表12人と一般50人が参加し、「海が前面に見え、緑が多い、安らぎの場に」「各種の食事ができ、常時イベントの開催を」など貴重な提案があり、今後の参考意見を得ることができた。今後も別府湾沿岸の官民の関係者間でみなとをテーマとした地域間交流を進めていく。

大分港 西大分地区みなとまちづくり協議会の実施

概要

西大分地区における賑わい創出のためのソフト・ハード事業や港湾緑地の維持管理の方法について検討し、「海辺の景観」「緑地の活用」「周辺倉庫の利活用」「緑地の維持管理」などを項目とする『賑わい創出のための提案』を取りまとめた。

構成メンバー：地元住民、民間企業(周辺事業者)、NPO、行政を含め20名の委員で構成

実施日：平成15年11月11日(火)、12月18日(木)

場所：かんたん倶楽部



【協議会の開催】

取り組みの成果

協議会での提案を基に、関係機関へ提言を行った

- みなとまちづくり協議会では「水上ネットワークの構築」「浮き桟橋の整備」「周辺地域との連携イベントの実施」「灯台のライトアップ」「ドックラン広場の設置」「周辺倉庫の利活用」「緑地の維持管理費捻出のための駐車場の有料化」「ボランティアによる緑地の日常的管理」等の提言を行った。

¹ ドックラン広場：飼犬を放し飼いできる柵等に囲われたスペース。設置することにより、愛犬家の継続的な緑地への来訪が見込まれる。

『緑地』を活用したみなとまちづくり(大分港)



【倉庫を使ったクラブイベント】

倉庫を使ったクラブイベントの実施

概要

北風の吹く冬季のウォーターフロントの活用方策の一環として、また、若者に対する認知度の向上を目的に、改築した海辺の倉庫(かんたん倶楽部)で、クラブイベント(音楽やダンスイベント)を開催した。

実施日時:平成15年11月8日、23日、12月6日(3回)
場 所:かんたん倶楽部
参加者数:約900人(3回計)

「イカ釣り」スローフードイベントの実施

概要

ウォーターフロント活用方策として、レストラン前に係留してあるクルーザーで、別府湾をクルージングし、夜景を眺めながら天然のイカ釣りをし、釣ったイカをかんたんサーカス内の海辺のレストランで調理してもらい食事をするイベントを実施した。

実施日 :平成15年11月~12月(渡航回数12回)
参加者数:60人
場 所 :別府湾およびかんたんサーカス



【イカ釣りイベント】

取り組みの成果

実施したイベントいずれも好評で、今後も継続の予定

- 「クラブイベント」と称して、夜間に3回開催し、若い層には口コミで広がっており、多くの参加者から「雰囲気最高」という感想が聞かれるなど概ね好評で、当地区の認知度が高まってきている。
- 今後は、今回のイベント参加者が主催者となって、企画・運営を行っていくことが検討されている。
- イカ釣りイベントは、自然を体感できるということが家族連れの参加者に好評で、釣り食事のセットであることでもかなりの評価を得た。この結果から季節ごとの別府湾の恵みなどを楽しめる企画など今後も継続して取り組んでいく。



【まつり、花火】

今後のみなとまちづくりの取り組み

試行した2つのイベントの継続化

西大分地区へのさらなる認知向上を図るため、周辺の地元住民との連携や既存の祭り(『浜の市』など)とタイアップするなど工夫しながら、継続していく。

灯台のライトアップへの取り組み

みなとまちづくり協議会として、灯台のライトアップの許可を得るべく航路標識事務所に要請していく。

ドックラン広場の設置

みなとまちづくり協議会の提言をうけて、かんたんサーカス前面に試験的にドックラン広場を設置し、利用状況を調査していく。